

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第 14 号(平成 23 年 2 月発行)

さる 12 月 15 日(水)に平成 22 年第 4 回定例会が開会され、同月 27 日(月)に一般質問が行われ、議案 6 件が可決され閉会しました。

今回は、中村勝議員(三重県議会選出)、早川新平議員(四日市市議会選出)の二人が四日市港港湾行政に関する質問を行い、管理組合執行部に答弁を求めました。

主な質問・答弁要旨

中村勝 議員



地球温暖化に起因して台風の巨大化等が予想されており、昨年の 18 号台風によって三河港では空コンテナが流出している。四日市港の安全・安心対策として、台風等による空コンテナ及び完成自動車等の流出対策はどのように考えているのか。

台風 18 号による高潮により、三河港でコンテナが流出する被害があったことを受け、当港においても昨年 11 月に国・県・市・港湾運送事業者等と三河港での被害状況の情報共有を行い、四日市港の高潮対策について意見交換を行いました。

また国においては、今年 5 月に高潮災害低減方策の提言を発表していますが、それによると四日市港ではコンテナ等の流出の危険性は小さいという結果が報告されています。

しかしながら、万全を期すため来年 5 月に高潮を想定したコンテナ流出防止対策の訓練を実施する予定であり、今後も四日市港の安全・安心を確保するため、関係機関等と連携して取り組んでまいりたいと考えています。

早川新平 議員



名古屋港で発生する浚渫(しゅんせつ)土砂について、その処分候補地として四日市港内に含まれているが、四日市港に受け入れる余地があれば、名古屋港や本港にとって一石二鳥のぜひ実現させたい計画と思われる。現段階においての今後の取り組み方針や計画を示していただきたい。

名古屋港では発生し続ける浚渫土砂の処分場を港外に求めざるを得ない状況にあり、四日市港も 4 つの候補地の 1 つとして挙がっています。事業主体は中部地方整備局ですが、12 月に広く意見募集を行うなど、選定作業は緒についたところです。四日市港内も候補地の 1 つとして選定はされていますが、具体的な位置が示されているわけではありません。今後、仮に土砂処分場が四日市港内に選定される場合には、四日市港として管理運営に支障が生じることがないか、将来戦略に合致するか、干潟などの自然環境への影響はどうか、円滑かつ安全な船舶の航行に支障がないかなどについて検討していかざるを得ないと思っています。

詳細な質問答弁等については、当組合議会ホームページ会議録をご覧ください。